

令和3～4年度

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究

実践事例報告

三重県立水産高等学校

三重県立水産高等学校とは

- 所在地 三重県志摩市
- 生徒数 R3年度 197名
R4年度 168名
- 学級数 6学級
- 設置学科 海洋・機関科
水産資源科
- 県内唯一の水産・海洋を学ぶ
高等学校



三重県立水産高等学校とは

○ めざす学校像

「かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」というスローガンのもと、「学力の定着・向上」「希望進路の実現」「豊かな心の育成」をめざし、地域と社会から信頼され必要とされる学校。

○ 育みたい生徒像

水産・海洋に関する知識・技術の習得を通し、「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を高め、水産・海洋関連分野のリーダーとして活躍できる生徒。

実践研究の趣旨・目標

<主題>

「志摩市活性化プロジェクト」の考案をとおした社会参画力の育成

<主題設定の理由>

① 学校の現状

地域社会の課題解決に向けて当事者意識を持つことができない生徒が多い。

② 地域からの要望

学校で習得した専門性を活用して地域社会に貢献する取組を充実してほしい。

実践研究の趣旨・目標

<概要>

- **学校での学びと地域の課題解決との結びつきを意識する。**
 - 地域の関係諸機関と連携し、出前授業、フィールドワーク等とそれに係る事前・事後指導を充実させる。
- **自らが見出した地域課題と教科で学んだ内容を結び付けて、多面的・多角的に考察したり仲間と意見交流したりしながら協働して探究をすすめる。**
 - 新聞や公的機関が発行する資料等を活用し、適切かつ効果的にまとめる学習を充実させる。
 - ICTを活用し、仲間との協働学習を充実させる。

実践研究の趣旨・目標

<目標>

このような学習活動をとおして、生徒一人一人が自らの進路意識と在り方生き方を自覚することにつながり、水産高校生としての誇りと自己肯定感を高め、「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を向上させ、主体的に社会に参画する力を持った公民を育成する。

重点的に取り組んだこと

- ① 地域の関係諸機関との連携
- ② 単元計画の構想
 - ・ 関係諸機関との連携を単元を構成する要素とする。
 - ・ 教科横断的な取組を充実させる。
 - ・ 中間発表会を実施し、生徒が自らの取組を振り返る機会を設ける。

取組事例① 地域の関係諸機関との連携

○ 連携先①

志摩市議会事務局

○ 内容

市議会を傍聴する【特別活動】

○ ねらい

- 地域課題を知り、政治と自分たちの生活が密接に結びついていることを知る。
- 学校での学びを地域でどのように生かすことができるのかを考えるきっかけとする。

取組事例① 地域の関係諸機関との連携

○ 連携先① 志摩市議会事務局



取組事例① 地域の関係諸機関との連携

○ 連携先②

志摩市選挙管理委員会

○ 内容

三重県知事選挙および衆議院議員総選挙における模擬投票
【現代社会】

○ ねらい

- ・ 選挙権年齢が満18歳以上であることをふまえ、有権者になることや平和で民主的な国家及び社会の形成者となることについての自覚を持ち、政治に参加することの重要性について理解を深める。

取組事例① 地域の関係諸機関との連携

○ 連携先② 志摩市選挙管理委員会



取組事例① 地域の関係諸機関との連携

○ 連携先③

東海財務局津財務事務所
津税務署

○ 内容

財務大臣になったつもりで、
日本の財政について考える。

○ ねらい

納税者として税金がどのように
に使われているか関心を持つ。



取組事例① 地域の関係諸機関との連携

- 連携先④

志摩市総合政策室

- 内容

「志摩市活性化プロジェクト」の市長への提言

- ねらい

自らが考案した地域の課題解決策を発表することを通して、専門家の評価や妥当性、効果、実現可能性などの観点から一年間の学習を振り返る機会とする。

取組事例① 地域の関係諸機関との連携

連携先④ 志摩市総合政策室

<実践内容>

生徒が、志摩市議会の傍聴や自分の普段の生活を見通して見出した課題について、共通する思いを抱く生徒ごとにグループをつくり、解決策の作成に取り組んだ。自分たちの考えた内容をスライド資料にまとめ、志摩市長への提言として発表した。

<生徒が市長に提言した内容>

- 磯焼け被害による漁獲高減少への対策
- 海岸ゴミを減らそう
- 志摩市をPRして観光客をよびこもう
- 公共交通の減便への対策
- 志摩市の空き家リノベーション活用

取組事例① 地域の関係諸機関との連携

連携先④ 志摩市総合政策室

<成果>

- ① 発表資料作成のために、冬休み中、志摩市が海洋ゴミ問題の重点区域と特別区域に指定した海岸にゴミ拾いに行くなど、自主的に活動する生徒がいた。
- ② 生徒の提言により、公共バスの乗客数の増加と快適性向上のために、バスにUSBポートが実装された。

公共バスのUSBポート→



取組事例② 単元計画の構想

若狭高校
先進校視察

大項目A 公共の扉

社会的な見方・考え方を身につけるために、**公共空間を生きるための6つの視点**に沿って自分の意見を形成する。

大項目B 法・政治・経済

各単元に沿った目標と**単元を貫く問い**を設定し、各単元の目標に応じた外部講師や地域の方々との連携を重視する。

身近なテーマや実社会に起こっている出来事について社会的な見方・考え方を働かせ、課題の解決や意見の衝突に対して合意形成の方法を考える。

社会的な見方・考え方を働かせ、自分の意見を形成する際には、探究活動を想定し、根拠をもとに意見を形成することを求める。

大項目C 「志摩市活性化計画」の作成

これまでに培った社会的な見方・考え方、課題解決、合意形成の能力を活用して志摩市の課題を見出し、解決の方法を探究し、志摩市長に提案する。

取組事例② 単元計画の構想

大項目A 「公共の扉」

- 第一次
 - 1 人間を「個人」として尊重するとは
 - 2 人間が「社会的存在」であるとは
- 第二次
 - 1 「幸福」「公正」とは
 - 2 「効率」「公平」とは
 - 3 人間としての在り方生き方とは
- 第三次
 - 1 国家の役割とは
 - 2 民主主義と立憲主義とは
 - 3 立憲主義と人権保障とは
 - 4 公共的な空間に必要な基本原理とは

※ 東海財務局による出前講座実施、志摩市議会訪問【特別活動】

取組事例② 単元計画の構想

大項目B 「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」

- 第一次
- 1 仕事を通じて私たちは何を実現できるか
 - 2 財政の役割と租税の仕組みとは
 - 3 地方自治体の予算とは

- 第二次
- 1 少子高齢化による課題とは
 - 2 社会保障制度が必要な理由とは

※ 金融教育インストラクターによる出前講座実施【家庭科】

- 3 市場経済の仕組みとは
 - 4 市場経済の役割と限界とは
- 第三次
- 1 グローバル化による世界の変化とは
 - 2 グローバル化によりおこる問題とは

取組事例② 単元計画の構想

単元計画の構想の工夫①

教科（科目）の学習と生徒がこれまで触れてきた経験や、社会で起きていることを結びつけるために、授業ごとにより身近な問い（テーマ）を設定し、それらの問いを解決することで単元を貫く問いに取り組めるようにした。

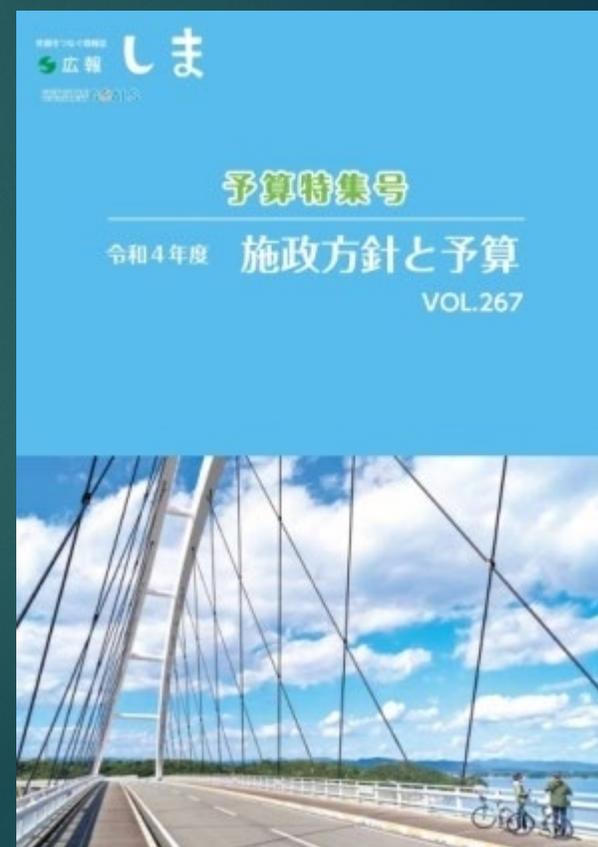
学校外の専門機関や関係諸機関と十分に打ち合わせをし、単元の目標を共有したうえで、出前講座を実施した。

取組事例② 単元計画の構想

単元計画の構想の工夫②

「公共」の学習内容について、志摩市活性化プロジェクトを踏まえて本校の所在する志摩市に関連する内容を取り入れた。

- ① 地方自治を扱う単元において、市議会傍聴を取り入れ、「志摩市の課題はどのようなものがあるか」について、生徒同士が意見交換をした。
- ② 財政を扱う単元において、地元の広報誌の財政特集号を活用した。志摩市予算の歳出の主要な項目を読み取った上で、歳出を減らすならどの項目か、歳出を増やすならどの項目かについて生徒同士が意見交換をした。



取組事例② 単元計画の構想（教科横断的な取組）

- (1) 家庭科との連携（消費者教育・金融教育）
- (2) 学校図書館との連携（NIEを活用した授業づくり）
- (3) 商業科との連携（SBP交流フェア※への参加）

※全国の高校生が地域の課題を解決するためにビジネスの手法等を学びながら取り組んだことを発表し互いに評価しながら向上をめざす交流事業）



取組事例② 単元計画の構想（教科横断的な取組）

（1）家庭科との連携（消費者教育・金融教育）

大項目B

「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」

第二次 2 社会保障制度が必要な理由とは

家庭科の授業において金融教育インストラクターによる出前授業
ふまえ、「人生におけるリスク」や「人生でどれくらいの支出が予測できるのか」について考えを深めた。

<生徒の振り返り>

誰もが社会的弱者に回ってしまう可能性があり、そのような立場の人に対して社会全体で助けていく仕組みが、誰もが安心して生活するために必要である。

取組事例② 単元計画の構想（教科横断的な取組）

（2）学校図書館との連携（N I Eを活用した授業づくり）

大項目B

「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」

第二次 3 市場経済の仕組みとは

授業で学習したことと、実社会で起きている事象を生徒の中で結びつけることをめざして実施した。

9月～11月の新聞記事から「物価上昇」についての記事を抜き出し、生徒が物価上昇について「要因」と「影響」、「政府の対応」の3項目について、分類しながらジャムボードにまとめ、授業のまとめとして今回の一連の物価上昇について、どのような「要因」と「影響」、「政府の対応」があったかについてワークシートに記述した。

取組事例② 単元計画の構想（教科横断的な取組）

（3）商業科との連携（SBP交流フェアへの参加）

<ねらい>

- 志摩市活性化プロジェクトにおいて、水産高校の特色を活かした取組を考案するグループをつくる。
- 地域の課題解決について「ビジネス」の視点を取り入れる。
- 他校の取組を知ることとおして、自分たちが考えていることよりもっと自由で大胆なことができることに気づく。

<内容>

- 本校の実習船でとったカツオをおいしく食べてもらうために上級生が考案した商品を販売する。
- 全国から集まった高校生の「地域の課題をビジネスの力で解決する取組」の発表に触れる。

取組事例② 単元計画の構想

「志摩市活性化プロジェクト」中間発表会【特別活動】

二学期末の「中間発表」の際に、ICTを活用し生徒同士の相互評価を行なった。

このことをきっかけに、どのようにスライドを作成すれば伝わりやすいか、感覚だけではなく、数値やデータで客観的に比較するために何が必要かなどについて、生徒同士で話し合いながら考えを深めることができた。

この後、自らアンケート調査を実施したグループや、「磯焼け」の要因となる生物について、校内の生物部の先輩に質問するなど自主的に活動するグループがあった。

取組事例② 単元計画の構想

＜中間発表会における成果と課題＞

- 評価項目を「根拠のある主張であるか」のみとしたため、発表の内容にデータや数値による根拠が用いられているかを基準に客観的に評価することができた。
- 生徒が考えた解決策について、その実現可能性や期待できる効果については、考えを深めることができなかった。
- 生徒の相互評価を即時にフィードバックできるよう、ICTのより効果的な活用方法を考える必要がある。

学習プログラムの成果

- 生徒が実際の政治や社会の課題に興味・関心を持ち、その解決に向けて、学校で学ぶ専門教科との結びつきを意識することができた。
- 生徒が主体的に学習する時間が増加するとともに、多様な方法で必要な情報を収集し分析することができるようになった。また、探究的な学習に興味・関心を持つ生徒が増加した。
- 教員の授業改善への取組が活発になった。また、生徒が自分たちの思いや取組について情報を発信することをとおして、その重要性を認識するとともに、生徒の社会参画意識が向上した。

学習プログラムの課題

- 「志摩市活性化プロジェクト」の作成について、2～3人のグループ学習としたため、特定の生徒に任せてしまう傾向が見られた。グループ活動の前に、個人活動による学習の成果をしっかりと見取る必要がある。
- 自ら考えて疑問や仮説を立てることができない生徒が一定数存在する。そのような生徒への支援方法について、研究を深めていきたい。
- 専門家や関係諸機関との連携や教科横断的な取組について、日程調整等が難しかった。連携する教科の担当者と授業計画について、年度当初に十分に話し合う必要がある。